メータオ・クリニック支援の会（ＪＡＭ）
会報メール　第 15 号　〔2009 年 12 月号〕

メータオ・クリニック支援の会（JAM）支援者の皆様

いつもご支援していただき、誠にありがとうございます。
JAM 会報メール第 15 号をお送りします。

JAM は 2008 年 3 月に発足された NGO です。ビルマ／ミャンマーからタイへ貧困や戦火を逃れてきた人々の病院、メータオ・クリニックの活動を支援する目的で設立されました。

支援者の皆様へ JAM の最新の活動を毎月中～下旬ごろ、会報メールにて発信いたします。
今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

＜目次＞　　〔ページ〕

メソト・マンスリー　今月のメソトの様子をお知らせします。　（田辺　文）

・ シンシア医師　50 歳　〔２〕

・ きょうのゆめ　〔２〕

・ メータオの子ども　〔３〕

国内から

・ Mae Tao Clinic　ごはん　（木村　尚子）　〔４〕

国際保健医療協力のなかで　（４）

・ 取り残される地域　（小林　潤）　〔６〕

編集後記　〔７〕

カレンダー販売します！　〔７〕

次号の予定　〔８〕

会員更新のお知らせ　〔８〕

メソト・マンスリー

今月のメータオ・クリニックの様子をお届けします。
【メソト（タイ北西部）＝田辺文】

シンシア医師　50 歳

12 月 6 日はメータオ・クリニックの創立者であるシンシア・マウン医師の誕生日でした。

医師として活動家として、そして多くのスタッフのリーダーとして迎える 50 歳の誕生日は、それはそれは盛大なものとなりました。

今年は深刻な財政難のため質素にとの希望でしたが、スタッフからの特別寄付より、大きなケーキやステージが用意され、 35 組の病院職員や移民自治学校の生徒による歌や踊りが 1 日中披露されました。
「大変な時だからこそお祭りは豪勢にしたい」そういう心と団結を支えるシンボルとしての期待に答えつつ、シンシア医師はいつもと変わらず落ち着いた笑顔でした。
「このお祝いは、一緒に働くヘルスワーカーすべてに対して贈られるものです。私がこの病院を始めて 20 年、今残念なのはこの病院を維持することに追われ患者さんを直接診ることができなくなってしまったこと。私の代わりに患者さんを診てケアしてくれるヘルスワーカーにはとても感謝しています。」

シンシア医師にとって節目の今年も、忙しいものになりそうです。
（写真：シンシア先生の誕生日会の様子）

きょうのゆめ

今月は、　ソー・ゾー・ルウィン君　１２歳　です。

木から落ちて右すねの細い方の骨を折りました。
ほうっておいたら 4 ヵ月後に折れた骨が飛び出してきたので病院に来ました。
出てきた骨を取り除いたけれど傷が開いたまま残ったので毎日包帯交換してもらっています。

おうちはカレン州でここからは 2 日かかります。お父さんと一緒に患者寮でたくさんの人たちと暮らしています。
将来のゆめは兵隊になること。理由はお兄さんや、知り合いがたくさん兵隊さんになったから。そしてかっこいいから。

メータオの子ども　～ブログ　Borderless Border's より～

メータオ・クリニックには子どもがあふれています。

小児外来や病棟はもちろんですが
内科にも外科にも　　駐車場にも患者宿舎にも。

多くが病気の家族に付き添って
クリニックに「引越し」してきた子どもたちです。

同世代の仲間には事欠かず、
ごはんもあり遊ぶスペースもある
犬も猫もアヒルもニワトリもいる

でも、彼らの「学ぶ」権利は守られてはいません。

子どものことを考えるとき
数週間前に亡くなった患者さん家族のことが思い出されます。

ひどい足の壊疽を患っていたその人は
２人の 10 代の子どもに看病されていました。

壊疽（えそ）とは？

少しの足の傷などに細菌が感染し、
そこが化膿してしまい、
皮膚から皮下組織などの細胞が死んで腐ってしまう病気）

私の以前働いていた病院では
創部の処置のときには家族は部屋から出すのが通常でした。

家族の気持ちを気づかってです。

また着替えや排泄のときは家族が看護師を呼び、やはりプロの手によって行われていました。

10 代の多感な時期に
母親の骨が飛び出て強烈な臭いを放つ創部の消毒を毎日手伝い
体中を拭いて排泄をさせ　　ベッドの下で寝食を共にしながら
最期まで看取った彼ら。

このつらかった経験は
どんなふうに彼らのこれからの心をつくっていくのでしょうか。

弟のほうは絵が上手で
いつも枕元で絵を描いて見せてくれました。

長い入院生活で
ごはん食べた？　　おねえさん　どこいくの？　　などの日本語を覚えました。

彼が描いてくれた私の似顔絵を見るたびに　あの子はどうしているだろうと思い出します。

いつかまたあの日本語を使う機会がありますように。

美化されている・・・。

★★　日々、更新中！　★★　　ぜひ、ご覧ください。
Borderless Border's　（田辺文のブログ）　http://www.japanmaetao.org/blog/borderless/

メータオ・クリニック支援の会ホームページにアクセス　⇒
活動・レポート・ＰＲ方法　⇒　「現地からのレポート」Borderless Border's

国内から

Mae Tao Clinic ごはん

【東京＝木村尚子】

はじめまして。私は現在都内の某病院で呼吸器外科医として勤務をしています。なじみのない科だと思いますが、簡単にいうと心臓以外の胸部の手術をしています。

３年以上前になりますが、当時勤めていた病院に勤務していたとき、当会の代表である小林先生の紹介でメータオ・クリニックに約６週間滞在しました。そのときの縁で JAM に参加しています。短期間であり、自分自身が外科医のため、外科病棟に限局した滞在でした。

滞在開始から数日たったある日のこと。「ご飯食べた？」が口癖の彼らに「まだだよ。」と答えたら、「もうすぐご飯できるからね。」と返してきました。えっ！私の分もあるの？と思いつつ診療を続けていると、病棟の裏に呼ばれ、そのとき初めて、いつもスタッフの食べているごはんを目にすることとなりました。お皿に盛られた山盛りのごはん、スープなどが机の上に並んでいました。そして私の分のご飯も準備していてくれたのです。その日から毎日ランチはスタッフが用意してくれ、お昼をすぎて外来診療が一息つくと、病棟の裏で一緒にご馳走になりました。
面白かったのは、私の食事係の役割をしてくれるスタッフをシニアスタッフが決めていて、いつも彼が用意してくれるということでした。「ご飯食べた？」「まだだよ」「もうすぐできるから待っていてね」という毎日が始まりました。

ランチを共にするようになってから、スタッフとの距離も近くなり、診療などの活動もう

まくいくようになったといっても過言ではなかったと思います。
　というわけで、前置きが長かったですが、今回は大好きだったメータオ・クリニックのごはんをご紹介したいと思います。

　ごはん（いわゆる炊いた米）はクリニックの炊事場から運ばれてきますが、おかずは病棟の裏にあるキッチンで野菜を調理したりスープをつくったり、売店で売っている味のついた肉などを食べていました。

　まず、欠かせないのはチリパウダーだそうです。いつもごはんの隣にはお皿に盛られたチリパウダーが並び、皆はそれをガバっとつかみ、ごはんの上にのせ、おかずはなくてもそれだけでごはんがすすみます。

　そこそこの辛党の私ですが、さすがにチリパウダーを直接ごはんにどーんとのせる勇気はなかったので、日本でふりかけをかけるときのようにぱらぱらっとごはんにのせて食べてみたところ、意外と確かにごはんがすすむことに気づき驚きました。白米ではなく、ごはんを炒めて味付けされたごはん（つまりチャーハンです）をつくってくれることもありました。

　スープは、味の素をいれて調理します。日本＝味の素！といわれるくらい、味の素はビルマ人にとってなくてはならない調味料です。さっぱりした予想通りのほっとできる味でした。ひとつのお皿にいれてお玉ですくって皆で分け合って食べました。

　また、時には患者さんが差し入れでもってきてくれる干した魚（日本の干物よりもさらにドライでした）や、野菜などもおかずの一部になりました。

　私のお気に入りは売店で購入する味のついた肉でした。鶏肉であったり豚肉であったり日によって違いますが、味付けは同じで油と調味料でしょっぱく（濃く）味付けられています。親指の先ほどのひとかけで、お茶碗一杯分ほどのごはんがすすみます。今でも、あの作り方をきいておけばよかった・・・と懐かしく思い出す味です。

　さて、最後にご紹介するのは、私がメータオ・クリニックを去る数日前、仲良くしていたスタッフのひとりがお別れに・・・と作ってくれた食事です。
　魚をトマトとチリで煮込んだものと、ごはんにかけて食べる魚の内臓でつくったソースと、きゅうりとトマトのスープです。味とともにその気持ちがおいしくて、お腹がいっぱいになったことを今でも覚えています。

メータオ・クリニックごはん、雰囲気を味わっていただけましたでしょうか。そのおいしさでついつい食べ過ぎてしまったためか、日本では食べない程の量のお米を食べていたためか、たった６週間で私のおなかは、ぽっこりといい大きさになってしまっていたことをご報告しておきます。

国際保健医療協力のなかで　（４）

取り残される地域

【東京＝小林潤】

今月上旬にラオス国を訪れたが、首都ビエンチャンでは SEA　GAME の開催まっただ中で多くの人でにぎわっていた。SEA GAME とは東南アジアのオリンピックのことで、メダル獲得に多くからんでくることもあって、オリンピックやアジアゲームよりも東南アジア各国においては多くの人が熱狂する。1959 年に第１回がタイ・バンコクで開催されてからほぼ２年に一回開催され、２５回目に初めてラオスはホストとなった。東南アジア１１カ国が加盟しているが、ホストになっていないのは残りカンボジアと東ティモールのみとなった。

メコン流域各国（カンボジア、ラオス、ミャンマー、ベトナム、タイ）の経済発展は目を見張るものがあり、世界的不況のなかでも年経済成長率を５％以上は維持していると言われている。２０年前には世界最貧 10 カ国にはいっていたラオスも、近代的競技場とホテルをもち SEA GAME をはじめとして ASEAN（東南アジア連合）の多々な会議を受け入れるまで発展している。ベトナムにおいてはタイのようにすでに中進国の仲間入りをしていると考える人も多く、援助の対象国からは卒業する日も近い。カンボジアは中国や韓国の投資がすすみ、経済発展は目覚ましいものがあり、ラオスよりも急激にインフラの整備が進んでいる。

1990 年代始めにラオス、カンボジア、ベトナムに対して、日本は支援を再開した。これはベトナム、ラオスは共産主義政権が市場経済を導入し、カンボジアは内戦がひと段落したときであった。私が国際保健に飛び込んだのもこの時期で、この３国を過去２０年弱の間飛び回ることになったのである。1995 年に長期滞在の専門家としてラオスでの初仕事は、コピー機や FAX の設置をして事務所の整備を行ったのだが、コピー機の使用法を教えて同じ文書がでてきたときに現地スタッフの驚きと喜びの顔は忘れることができない。彼らは、今コンピューターを使いこなし、私も使用法が詳しくわからない統計や地図作成のソフトを使いこなしている。

これらの経済発展はミャンマーも例外ではない。莫大な中国の投資によって中国からミャンマーを横切ってインド洋につながる幹線道路の建設は着々と進んでいる。ネピドーに首都が移転したのは皆さん御存じとは思う。始めは水・電気の不安的供給等のインフラの未整備の情報等ばかりが伝わってきたが、現在では近代的ホテルやスーパーマーケットがオープンし整備が急ピッチで進んでいる。タイの発展はいうまでもなく、一地方都市であるメソトにおいても国境沿いに幅広のハイウエーが整備され、工場団地の誘致計画までもが進んでいる。一方、これらに挟まれた地域：メータオ・クリニックにアクセスしてくる人がいる地域はどうなるのであろうか。

ベトナム、ラオス、カンボジアにおいても僻地の貧困は残された課題となっているが、テレビや携帯電話の普及は進み、公衆衛生の改善もこれらの地域にも現在重点的にとりかかっている。ミャンマーは 1969 年に SEA GAME のホストとなってから開催は行われていない。これを意味することは、政治的混乱が大きいのかもしれない。ミャンマーの旧首都のヤンゴンでは携帯電話が 10 万円もする社会がある。だからどうしようもないのであろうか。

一つ希望がある。人類は健康転換をなしとげている。すなわち経済発展より前に公衆衛生の普及に成功し、貧困にあえぐ途上国においても乳幼児死亡率や平均寿命の大幅な改善に各国で成功している。専門家、

実務家らが、低コストで効果的なアプローチを開発しつづけているのである。私たちにもやれることはあるはずである。メータオクリニックを取り巻く地域での健康転換につながる手法の開発とその導入は、これから JAM で皆とともに勉強していきたいと思っている。

編集後記

当会が設立されてから１年半が経過しました。

昨年１０月末、日本テレビのニュース ZERO で
サフラン革命での長井さん殺害１回忌特集の中でメータオ・クリニックが紹介されました。
現在、会員の多くの方は、
この特集をご覧になったことがきっかけで会員になってくださった方々です。
１年間、あたたかくご支援をしていただき、本当にありがとうございました。

当会は、
青年海外協力隊の派遣を終えてきた人、
医師、看護師、保健師、助産師、大学院で国際保健の研究をしている人、
つまり、国際保健や医療のことは専門分野だけど・・・
宣伝や商売には恥ずかしながら、まったく疎い人たちが集まって立ち上げました。
そのうち、パソコンに詳しい会社員も、大学生（もう卒業したけど）も加わりました。
本当に多くのいろんな人が JAM のことを知って関わってくださいました。

でも、本当は、もっともっと多くの人に
メータオ・クリニックのこと、
国境近くで生活している孤児のこと、彼らの数が年々増えていること、
そしてもちろん、JAM のことも知ってほしいと思っています。
まだまだひよこの当会ではありますが、来年もがんばっていきます。
今後ともどうぞよろしくお願いします。

今年度の「会員の方へのささやかなプレゼント」を郵送で送ります。
ぜひ、リビングや職場のデスクなどで使っていただければ、幸いです。
写真の子どもたちのほっぺたが白いのは、「タナカ」という日焼け止めを塗っているからです。
ちなみに私のお気に入りの写真は、「１１月」です。あれくらい一生懸命勉強したいものです。

カレンダー販売します！

今回、賛助会員の皆様にお送りさせていただきましたカレンダーは、販売もいたします。
お友達にも差し上げたい！自宅と職場と両方に置きたい！そんな会員の皆様に。

１冊からでも、**大量注文**も、**大歓迎**です。

１冊　１５００円（送料込み） です。

ご希望の方は、**日本事務局宛てＥ メール**　：　support@japanmaetao.org　に

タイトルに「カレンダー購入希望」 と書いていただき

本文に

①お名前
②郵便番号、ご住所
③ご連絡のつくメールアドレスなどの連絡先
④会員の有無
⑤希望冊数

をご記入の上、日本事務局までお申し込みください。

＜ご購入までの流れ＞

①カレンダー購入希望のメールを日本事務局にお送りください。
↓
②日本事務局から、在庫を確認し、振込み先などを記載したメールが来ます。
（もしも、メール送信から、５日たっても連絡がなければ、お手数をおかけいたしますが、再度ご連絡をください）
↓
③日本事務局からのメールをご確認後、入金をお願いします。（ゆうちょ銀行の予定）
↓
④入金が確認できしだい、発送をいたします。

注意：事務局住所はスタッフが常駐していないため
申し込みはメール限定です！！

カレンダーの売り上げは、全額、
メータオ・クリニックの院内感染予防活動および移民学校における保健活動等、
事業に使わせていただきます。

数に限りがありますので万が一、売り切れの際は、ご容赦ください。
ご希望の方はお早めに。

次号の予定

次号の JAM の会報は、１月中～下旬ごろ発行の予定です。
ホームページは、随時更新していきますので　ぜひ、お時間があるときにご覧ください。

会員更新のお知らせ

１年間ＪＡＭの活動を応援してくださり、誠にありがとうございました。
皆様の会費と寄付に支えていただき、私たちはメータオ・クリニックの院内感染予防活動および移民学校における保健活動等、事業を展開することができました。今後も現地の保健医療サービスの向上により、ひとりでも多くのビルマ/ミャンマーの人々が心身ともに健康的に生活することができるよう、尽力してまいります。引き続きＪＡＭの活動をご支援いただきたく、ご賛同いただける方は会員更新の手続きを宜しくお願い申し上げます。

**会員更新のお手続きの対象となる方には、
今回、会員特典としてお送りいたしましたカレンダーと一緒に
「更新のご案内」を同封しておりますのでご確認ください。**

なお、更新を希望されない方につきましては、手続きは不要です。またご支援いただける機会をお待ちしております。

賛助会員 更新手続き（年会費入金）の方法について

■更新手続きの対象となる方

2008 年 10 月～12 月までに賛助会員となられた方

■対象となる方で更新を希望される方は下記年会費を郵便振込先へご入金ください。

＜年会費＞
一般会員：３，６５０円／年
学生会員：１，８２５円／年
法人会員：３６，５００円／年

＜振込先口座＞
銀行：ゆうちょ銀行［金融機関コード：9900］
店名：〇〇八 店（ゼロゼロハチ店）［店番：008］
口座番号：普通 2577010
口座名義：メータオ・クリニックシエンノカイ
※ 当会が入金の確認をもって手続き終了となります。
※ メールにて更新手続きの完了をお知らせいたします。

■入会についての注意事項

・会員の有効期間は、入金日から１年となります。
・住所、氏名、メールアドレス、振込名義に変更がある場合は、下記の事務局までご連絡ください。

■更新期限　　2009 年 1 月 31 日まで

※ 今回、更新の対象となる方で更新手続きのない場合、会報の配信は１月で終了します。

※ 期限を過ぎてから入会する場合は、ホームページより新規の方法でお手続きくださいますようお願いします。

◇◆◇

メータオ・クリニック支援の会　　Japan Association for Mae Tao Clinic（JAM）

日本事務局宛て E メール　：　support@japanmaetao.org

ホームページアドレス　　：　www.japanmaetao.org

※掲載されている全ての内容、文章の無断転載を禁止します。

◇◆◇

JAPAN ASSOCIATION FOR MAE TAO CLINIC